授業科目名・形態	文学の世界　　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	花田　富二夫　　橋元　志保	実務経験の有無	無	開講期	1～2 年前期
科目ナンバリング	C1-1001R				

【授業の主題】

大学生としてふさわしい教養を身につけるために、幅広い分野の文学を学びましょう。前半の古典を花田が、後半の近代文学を橋元が担当します。

『奥の細道』の名前を知らない方はいないでしょう。ドナルド・キーンによって日本文学の最高作品と評されたこの作品は、もはや日本の国民文学と称されていいかもしれません。この作品はすべて事実に基づいたものと思っている人もいるかもしれませんが、実は、虚構の箇所が推測される文学的作品でもあります。授業ではその文学性にも踏み込みつつ主に私たちの地域を中心にした部分を講読します。仙台から山を越えて山形や秋田の地を旅した芭蕉の文章をみんなで読み、味わいましょう。皆さんも耳にしたことのある発句をめぐってその魅力を探ることにします(花田　富二夫)。

明治維新から日本の近代は始まります。ご一緒に、近代文学の世界を旅してみませんか。明治日本の自然・文化・人々をこよなく愛したラフカディオ・ハーン（小泉八雲）のエッセイから、明治日本の魅力を味わってみましょう。また、当時はいわゆる海外留学が始まった時代でもありました。異文化に触れることで、日本人達は世界的に見ても素晴らしい近代小説を書き始めます。その代表的な作家として夏目漱石を取り上げ、彼の英国体験がどのように作品に活かされているのかを探っていきます。また、世界文学としての漱石・八雲についても考えていきたいと思います(橋元　志保)。

【到達目標】

1．芭蕉作『奥の細道』の文章を理解することができる。
2．芭蕉の構想と俳諧の魅力に触れ、理解することができる。
3．文学的文章を味読することで、読解力が深まり、その価値と魅力を考察できるようになる。

【授業計画・内容】

第 1 回　芭蕉の生涯並びに『奥の細道』の構想について（花田担当）
第 2 回　『奥の細道』鑑賞「発端」「旅立ち」(花田担当)
第 3 回　同上「白河の関」を中心に（花田担当）
第 4 回　同上「仙台～塩釜」を中心に（花田担当）
第 5 回　同上「松島～瑞巌寺」を中心に（花田担当）
第 6 回　同上「平泉～尿前の関」を中心に（花田担当）
第 7 回　同上「立石寺～最上川」を中心に（花田担当）
第 8 回　同上「月山～象潟」を中心に（花田担当）
第 9 回　明治日本の夜明けと国際交流（橋元担当）
第 10 回　小泉八雲と国際結婚（橋元担当）
第 11 回　小泉八雲と民話・怪談（橋元担当）
第 12 回　小泉八雲・夏目漱石と近代小説（橋元担当）
第 13 回　異文化との出会いー夏目漱石の英国留学ー（橋元担当）
第 14 回　異文化との出会いー八雲の見た明治日本ー（橋元担当）
第 15 回　総括ー世界文学としての漱石・八雲ー（橋元担当）

【授業実施方法】

秋田キャンパスからのリモート授業による。

【事前・事後学習】

配布された資料に目を通し、分からない言葉等は調べておくこと（2 時間程度)。また、第 9 回からはワークシートも配布するので、授業の復習を行い、次回提出すること（1 時間程度)。

【主な関連する科目】

日本の歴史Ⅰ・Ⅱ　日本の文学　文章表現法ほか

【教科書等】

資料（プリント）を配布します（花田・橋元)。

【参考文献】

授業時に紹介します（花田・橋元)。

【成績評価方法】

主体的な学びの姿勢（20%)、課題の提出（20%)、試験（60%）の総合評価となります。

【学生へのメッセージ】

受け身ではなく、積極的に、興味と関心を持って授業に臨んでください。